

函館工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	社会人基礎力演習Ⅱ	
科目基礎情報							
科目番号	0372			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 1		
開設学科	生産システム工学科			対象学年	5		
開設期	前期			週時間数	1		
教科書/教材	必要に応じて適宜配布する（1年次に使用したファイルは続けて使用する。）。						
担当教員	奥平 理,中村 和之,鳴海 雅哉						
到達目標							
1.社会人基礎力を理解し、実践しようとする。 2.進路志望を明確にし、達成のために実践できる。 3.最上級生としてふさわしい言動を理解できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	社会人基礎力を理解し、適切に、望ましい形で実践できる。			社会人基礎力を理解し、実践しようとする。		社会人基礎力を理解し、実践できない。	
評価項目2	進路志望を明確にし、達成のためにあらゆる努力を重ねることができる。			進路志望を明確にし、達成のために実践できる。		進路志望を明確にし、達成のために実践できない。	
評価項目3	最上級生としてふさわしい言動を理解し、実践できる。			最上級生としてふさわしい言動を理解できる。		最上級生としてふさわしい言動を理解できない。	
学科の到達目標項目との関係							
函館高専教育目標 A 函館高専教育目標 D 函館高専教育目標 E							
教育方法等							
概要	社会人になろうとする学生として、5年生であるということを十分考慮し、健全な生活や望ましい集団人間関係を築きながら、人間としての在り方生き方について自覚し、技術者として備えるべき分野横断的能力の伸長を意識して、自らの志望する進路を実現するために主体的実践的な行動をとることができる。						
授業の進め方・方法	グループ討議、発表、教員による講話 本講義は、各学年で設定される「コミュニケーション科目」の一つで、みなさんが函館高専の学生として健全に成長することを目標としている。特に5年次では、高専生活の集大成として、「社会に貢献できる自己」を意識して、卒業までに「社会人基礎力」（職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力）を養成していく。望々と、胸を張って社会に旅立つために、準備をしてもらいたい。						
注意点	評価について、英語や数学などの一般教養科目と異なり、「知識を得た」ことを評価の対象としない。ワークショップや発表における姿勢やそのまとめとしてのレポート、および自己実現目標の設定とその自己評価でもって評価とする。前向きに取り組む姿勢であればあるほど、それに報いたいと考える（評価：その他）。すでに述べたとおり、本講義には積極的に参加してもらいたい。従って、授業中に本講義と関係の無い取り組みをしていたり、不要の物を操作していたりした場合は、「意欲無し」と見なし、相応の減点措置となることを覚悟されたい。加えて、そのような姿勢であれば、将来に向けて必ずや失点となるであろうことを指摘しておく。 ※この科目の授業は第3クォーター（後期前半）に2時間連続で実施される。 JABEE教育到達目標評価：課題100%（D-3：50%、E-2：50%）※今年はA-2の内容は実施不可能。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス、1年間の自己実現目標再設定、「社会人」とはどうあるべきか（グループ討議）		本講義の概要を理解し、自己実現目標を再設定できる。グループ討議の目的を適切に理解し、自らのコミュニケーション能力（人間力）を活用あるいは伸ばそうとすることができる。		
		2週	社会人基礎力について（講義）、社会人に起こりうるトラブル①「ハラスメント」（グループ討議）		担当講師による講話を適切な姿勢で聞き、内容を十分理解し、自らの役に立てることができる。グループ討議の目的を適切に理解し、自らのコミュニケーション能力（人間力）を活用あるいは伸ばそうとすることができる。		
		3週	「ハラスメント」（講義）、社会人に起こりうるトラブル②「身近な法律—契約—」（グループ討議）		担当講師による講話を適切な姿勢で聞き、内容を十分理解し、自らの役に立てることができる。グループ討議の目的を適切に理解し、自らのコミュニケーション能力（人間力）を活用あるいは伸ばそうとすることができる。		
		4週	「消費者」についての講演会（社会人準備講座、学生委員会主催）、社会人に起こりうるトラブル③「身近な法律—損害賠償—」（グループ討議）		担当講師による講話を適切な姿勢で聞き、内容を十分理解し、自らの役に立てることができる。グループ討議の目的を適切に理解し、自らのコミュニケーション能力（人間力）を活用あるいは伸ばそうとすることができる。		
		5週	「身近な法律—損害賠償—」（講義）、社会人として①「マナー」（グループ討議）		担当講師による講話を適切な姿勢で聞き、内容を十分理解し、自らの役に立てることができる。グループ討議の目的を適切に理解し、自らのコミュニケーション能力（人間力）を活用あるいは伸ばそうとすることができる。		
		6週	「マナー」（講義）、社会人として②「現代社会への視線」（グループ討議）		担当講師による講話を適切な姿勢で聞き、内容を十分理解し、自らの役に立てることができる。グループ討議の目的を適切に理解し、自らのコミュニケーション能力（人間力）を活用あるいは伸ばそうとすることができる。		
		7週	「現代社会への視線」（講義）、社会人として③「セルフマネジメント」（グループ討議）		担当講師による講話を適切な姿勢で聞き、内容を十分理解し、自らの役に立てることができる。グループ討議の目的を適切に理解し、自らのコミュニケーション能力（人間力）を活用あるいは伸ばそうとすることができる。		
		8週	「セルフマネジメント」（講義）、アンケート※後期中間試験は実施しない。		担当講師による講話を適切な姿勢で聞き、内容を十分理解し、自らの役に立てることができる。授業内容を振り返ることができる。		

	2ndQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	適切な範囲やレベルで解決策を提案できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7
	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8
				自らの考えで責任を持つてものごとに取り組むことができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8
				目標の実現に向けて計画ができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8
				目標の実現に向けて自らを律して行動できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8
				日常生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8
				社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8
				チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7
				チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7
				チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7
				リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7
				適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7
				リーダーシップを発揮する(させる)ためには情報収集やチーム内での相談が必要であることを知っている	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7
				法令やルールを遵守した行動をとれる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8
				他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8
				自身の将来のありたい姿(キャリアデザイン)を明確化できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8
				その時々で自らの現状を認識し、将来のありたい姿に向かっていくために現状に必要な学習や活動を考えることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8
				キャリアの実現に向かって卒業後も継続的に学習する必要性を認識している。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8
				これからのキャリアの中で、様々な困難があることを認識し、困難に直面したときの対処のありかた(一人で悩まない、優先すべきことを多面的に判断できるなど)を認識している。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8

				企業等における技術者・研究者等の実務を認識している。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8
				企業人としての責任ある仕事を進めるための基本的な行動を上げることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8
				企業には社会的責任があることを認識している。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8
				企業が国内外で他社(他者)とどのような関係性の中で活動しているか説明できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8
				調査、インターンシップ、共同教育等を通して地域社会・産業界の抱える課題を説明できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8
				社会人も継続的に成長していくことが求められていることを認識している。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でどのように活用・応用されているかを認識できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8
				企業人として活躍するために自身に必要な能力を考えることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8

評価割合

	試験	課題	発表	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	100	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	50	0	0	0	0	50
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	50	0	0	0	0	50